

試験研究成果普及情報

| 部門 | 内水面 | 対象 | 普及 |
|---|-------------------------------|----|----|
| 課題名：ホンモロコ養殖技術 | | | |
| <p>[要約] 休耕田におけるホンモロコ養殖試験の結果、500m²の池において、卵収容から約半年で150kgの生産が可能であった。また、塩水による卵の水カビ対策、夏期の通気等の飼育管理により、歩留り向上の可能性が示唆され、千葉県においてホンモロコ養殖は可能であると考えられた。</p> | | | |
| キーワード：ホンモロコ， 養殖， 休耕田 | | | |
| 実施機関名 | 主査 水産総合研究センター内水面水産研究所 協力機関 | | |
| 実施期間 | 2001年度～2006年度 | | |

[目的及び背景]

ホンモロコは、琵琶湖特産種であり、関西地方では高級魚として取り扱われており、関東地方では、埼玉県などで養殖が行われている。

そこで、ホンモロコを地域的な特産品とするため、ホンモロコ養殖技術の開発を行うとともに、休耕田を利用した養殖の可能性を検討した。

[成果内容]

- 1 発眼卵の水カビ対策として塩水による卵管理について検討したところ、塩水を使用することによりふ化率が向上するものと推察された（表1）。
- 2 種苗生産の初期に使用する生物餌料の代替として、配合飼料の単独給餌を行い、生残率、成長差を比較したところ、ふ化後2日目から2週間程度においては差は見られなかった。このことから、卵収容時に生物餌料が不足している場合でも、生産が可能であると考えられた（表2）。
- 3 ホンモロコ養殖を行っている休耕田においては、アオミドロなどの藻類の発生が見られ、日中のDOは12mg/L～飽和状態であるが、夜間のDOは3～5mg/Lと少なくなかった。このため、特に藻類が増える夏場は、通気が必要であると考えられた。
- 4 500m²の休耕田で養殖を行った場合、5月に発眼卵を収容したところ、11月までに全長80mm、体重7gに成長し、150kgの生産が可能であった。このことから、千葉県における休耕田でのホンモロコ養殖は可能であると考えられた（図1、表3）。

[留意事項]

[普及対象地域]

県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

久留里ホンモロコ生産組合及び養老川漁業協同組合において、卵及び仔魚からの飼育が開始された。

[成果の概要]

表1 卵管理時の飼育水別ふ化率及び生残率

| | 爆気水 | 0.5%塩水 |
|-----------|------|--------|
| 収容卵数(粒) | 2000 | 2000 |
| ふ化率(%) | 11 | 43 |
| 2日後生残率(%) | 9 | 39 |

表2 ふ化後2日目～16日目における生物餌料・配合飼料試験結果

| | | 1区 | 2区 | 3区 | 4区 |
|----------|------|--------|--------|------|-----|
| 給餌量 | | | | | |
| シオミズツボムシ | (千個) | 50,250 | 50,250 | 0 | 0 |
| 配合飼料 | (g) | 0 | 8.9 | 8.9 | 0 |
| 生残率 | (%) | 97.5 | 92 | 91.5 | 0.5 |
| 終了時全長 | (mm) | 13.7 | 15.6 | 12.9 | 6.4 |

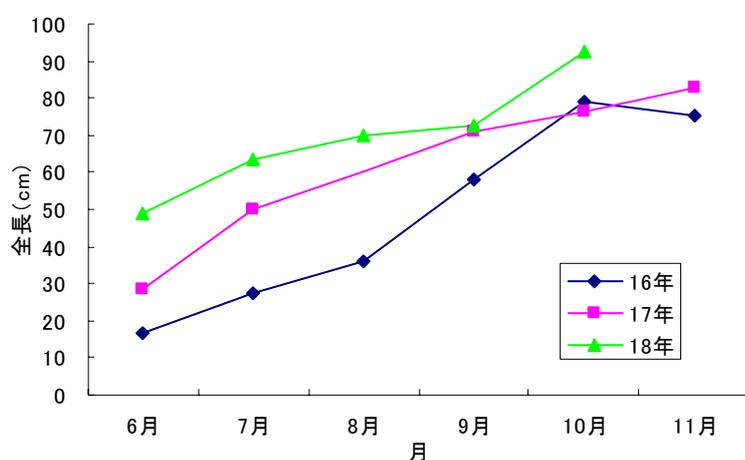


図1 休耕田におけるホンモロコの成長

表3 君津市の休耕田養殖での生産実績

| 実施年度 | 養殖池面積 (m ²) | 池面数 | 収容卵数 (千粒) | 生産量 (kg) |
|------|----------------------------|-----|-------------------|-------------------|
| H16 | 500 | 1 | 140 | 67 |
| H17 | 500 | 1 | 165* ¹ | 150 |
| H18 | 3850 | 8 | 630 | 120* ² |

*1 このうち、105千粒はふ化仔魚で収容

*2 H18.12月現在で取り上げた量

[発表及び関連文献]

ホンモロコ配合飼料試験Ⅰ、平成13年度千葉県内水面水産研究センター事業報告、2003年

ホンモロコ種苗生産試験、平成15年度千葉県内水面水産研究センター事業報告、2005年

ホンモロコ養殖試験、平成15年度千葉県内水面水産研究センター事業報告、2005年

[その他]